

ニュース 玉 手 箱



今こそ見直そう地域の食文化



宮 岐阜県綾町で薬局・薬膳料理店を営むかたわら有機農業に取り組む郷田美紀子さんの講演会が5月13日（日）に虹のプラザ多目的ホールで開催されました。これは福祉ボランティアいこいの会（森昇一会長）が主催したもので、会場には約120の方が訪れました。郷田さんは有機農業や薬剤師としての経験から地域の食材と食文化の重要性を訴え、偏った食生活を見直すきっかけとして漢方薬膳の「五味調和」という考え方を紹介しました。講演会では参加者からの質問コーナーもあり、食生活改善のヒントを得ようとさまざまな質問が寄せられていました。

定植イベントで土とふれあう

ス イカオーナー会の定植イベントが5月3日（木）に深堀ふれあい農園で行われ、県内外から訪れた家族連れが土とふれあいました。イベントには宮城県や東京都など遠方からも多くの参加があり約150人のオーナーが訪れました。定植作業では参加者が苗を受け取って徐々に畑に入り、スイカを管理する芳賀哲雄さんの説明を聞きながら、ていねいに植え付けていました。植えた苗は糖度が高く身がしっかりしているのが特徴の品種「祭りばやしレブン」で、スイカはこのあと寒暖差の大きい大石田町の気候によって、甘くおいしく成長します。7月下旬には大きくなったスイカの収穫イベントが行われる予定です。



町をきれいに

ク リーンアップおおいだ大作戦（河川清掃）が5月13日（日）の早朝、町民約600人が参加して、最上川、丹生川などの河川敷で行われました。これは大石田町地区衛生組織連合会が毎年実施しているもので、参加者は川沿いを歩きながらペットボトルや空き缶、ビニールなどの流れ着いたごみを拾い上げていました。中にはタイヤなどの粗大ゴミも見受けられ、およそ1時間の清掃で集められたごみの量はボランティア袋400袋、760kgにのぼりました。クリーンアップおおいだはこのあと年間5回行われる予定です。



大沼デパートで大石田町フェア

山 形市中心部の大沼デパートで大石田町フェアが5月11日（金）から13日（日）の3日間開催されました。大沼デパートでは毎年この時期に町の特産品などを紹介するフェアを開催しています。デパート入り口の特設ブースには町内産の採れたての山菜や漬け物、米粉パンなどが並びました。また、そば打ちの実演ブースの前では通りを歩く買い物客らが足を止めてそば打ちの技を鑑賞し、魅力いっぱいの大石田の味を買い求めていました。



町民目線の町政を



平 成30年度町政懇話会が4月20日（金）に役場大会議室で開かれ、町議会議員や各地区の区長、農業委員会委員など約70人が参加して今年度の町政運営について話し合いました。庄司町長が「町の活性化や定住対策を着実に進めていきたい」と町政の基本方針を説明し、続いて横山副町長が町の財政状況を、布川教育長が教育方針をそれぞれ説明しました。

その後に行われた意見交換では、町の活性化や住みよい環境づくりに向けた活発な意見が交わられていました。

混生地で住民らによる産卵数調査

ギ フチョウとヒメギフチョウの産卵数調査が5月14日（月）に川前地区で行われました。川前地区は全国的に珍しい両種のチョウの混生地となっており、地区住民で組織する「ギフチョウ・ヒメギフチョウを保護する会」（齋藤忠雄会長）が30年にわたって保護活動を続けています。産卵数調査は活動の一環として、町教育委員会と合同で毎年この時期に行っているもので、今回は地区住民ら8名が調査にあたりました。参加者は幼虫の食草が生える山の斜面などで、卵を踏まないよう慎重に歩きながらチョウが卵を産み付けるコシノカンアオイとトウゴクサイシンの葉を1枚1枚めくり、卵の数を記録していました。保護する会では良好な環境を維持するため9月には生息地の下草刈りを行う予定です。

